

# 図書館報

聖隷クリストファー大学

第6号

2008. 3

- 
- ・「源氏物語千年紀」をむかえて (渡辺 泰宏)・・・ 1～2 ・「雑感を綴る」 (長谷川 賢一)・・・ 5  
・子どもの本と私 (鈴木 恵理子)・・・ 3～4 ・雑誌について …… 6～8
- 

## 「源氏物語千年紀」をむかえて

社会福祉学部 教授 渡辺 泰宏

今年「源氏物語」が生まれて千年目の年だといわれています。そこで、これを「源氏物語千年紀」として、京都などを中心に、各地でさまざまな記念行事が行われ、これからも数多くが予定されています。つまり、「源氏物語」は西暦 1008 年に完成し、それから一千年が経ったということになるのです。ただし、誰もがこれについて大騒ぎしているわけではないので、ご存知でない方も多いかと思います。そこで、平安時代文学を専攻するものとしては、ぜひこの機会に、この日本文学史随一ともいえる大作「源氏物語」を紹介し、またそこから「本」や図書館についての私の思いなどについて述べてみようと思います。

「源氏物語」は、平安時代に紫式部によって書かれた長編の物語文学です。この物語は、光源氏という主人公の男の一生と、その子孫達の話が中心となっています。ただし、「源氏物語」というと、彼らの恋愛ばかりが目立っているようですが、実はこれはそれだけの作品ではありません。実際には、人の人生や家族の問題、当時の政治や社会について、教育や芸術論等と、ほぼ世の中の全てのもが話題として描かれています。また、その登

場人物の描写は、それぞれが独自の個性を持つ個人として描き分けられ、しかも、その各人物の心理が実に繊細に描写されているところが素晴らしいといえます。これは、近現代の小説のそれをも超えているといえるでしょう。

では、この「源氏物語」とはどんな作品なのでしょう。一般に、これは三部に分けて考えられています。

第一部は、光源氏の栄光を描くものです。光源氏は桐壺帝と桐壺更衣の子として生まれた親王でした。玉のように光り輝く子であったので、光(ひかる)とよばれます。また、ある予言によって皇族の籍を離れ、源氏の姓をもらいます。さて、桐壺帝は特に桐壺更衣を愛していたのですが、更衣は早くに亡くなってしまいます。帝の嘆きは尋常ではなかったのですが、桐壺更衣に似た藤壺女御を妃とすることでようやく心慰みます。光源氏も、母親に似るこの藤壺を愛してしまうのですが、藤壺は父帝の妃であり、光源氏はその身代わりとなる女性を求めて様々な恋をくりひろげることになるのです。最初に、源氏は左大臣家の、葵の上と結婚するのですが、彼女とはあまりうまくいきま

せん。その後、夕顔・六条御息所・花散里・末摘花等の女性達とのさまざまな恋愛を経験します。また、政敵、右大臣の娘である朧月夜との関係が見つかり、須磨・明石へとおもむかねばならなくなります。そこでは明石の君との出逢いもあります。結局、藤壺の姪である紫の上（若紫）と結婚しますが、藤壺との間には不義の子、後の冷泉帝が生まれ、友人の頭中将と夕顔との間に生まれた玉鬘に手を出そうとするなど、浮気な心はたえません。最終的に、冷泉帝が源氏を自分の父だと知ることによって、源氏は准太上天皇という地位につき、これまでつきあってきた女性を六条院という広大な屋敷に迎え入れて幸福に暮らすという、めでたしめでたしの結末となっています。

ところが、第二部に入ると、これががらりとかわります。四十歳をむかえ、当時でいえば老年に入ったともいえる源氏は、女三宮という若い皇女を妻としてむかえます。しかし、これが、これまで正妻というべき地位にいた紫の上との間に不和を生じさせます。さらには、頭中将の息子である柏木が、この女三宮と密通してしまい、その子、薫が生まれます。このことは源氏の知るところとなり、それを恐れた柏木は患ううちに亡くなってしまいます。そして、紫の上は出家を望むようになりますが、それを果たせずに亡くなります。源氏は、第一部における、藤壺との密通のしっぺ返しをうけ、また、それ以上の悲しみを感じながら晩年をむかえます。

第三部は、源氏の子（実は柏木の子）である薫と、源氏の孫、匂宮の話にかかわります。この二人も、宇治の大君・中君等との恋など、さまざまな

恋愛をくりかえします。しかし、その最後の、浮舟との恋は何とも悲しいものとなるのです。浮舟は、薫が見いだした女性でしたが、匂宮の情熱にせまられ、二人の男性の板ばさみとなり、宇治川へ入水します。彼女は命をとりとめるのですが、ある僧都と出会い、仏道に入ることによってようやく救われるのでした。人は愛や信頼を求めながら、かえって互いに苦しめあうことになってしまい、その孤独や不安を癒すものは宗教に求めるしかないのだ、という場面で「源氏物語」は終焉をむかえるのです。

どうですか。こんな「源氏物語」、読みたくなりませんか。古文で読むのはなかなか大変でしょうが、今は谷崎潤一郎訳、与謝野晶子訳、瀬戸内寂聴訳等も出版されていますから、難なく読むことができると思います。

最後に、私が思う、「源氏物語」の最もよいところについて述べましょう。それは、そこに全くの善人が登場しないことです。主人公の光源氏でさえ、女好きで、悪いこともしてしまいますが、そこで思い悩むのです。しかし、これによって、私たち読者は救われるのではないかと思います。

「私の悲しみは大したものではないかもしれない」「私の罪はまだ救われる方だ」などと思わせてくれるのです。良質の文学（物語や小説に限られるかもしれませんが）、あるいは名作とは、そういうものだと思います。「源氏物語」でなくてもかまいません。そんな「本」に出会えたら幸せではないでしょうか。図書館はそんな本の宝庫です。勉強のためだけでなく、このようにも図書館を利用してもらえたらと思っています。



## 子どもの本と私

看護学部 教授 鈴木 恵理子

本棚を見ると、その人の頭の中がわかるという。本を読むのが遅いので、ぶ厚い本は途中で挫折するのが常である。読まなければと思って買った本が雑然と書棚に並ぶ。頭の中と同じである。何で厚手の本が苦手となったかと言えば、小学校高学年の頃、本好きな父の願いをこめて毎月届く分厚い少年少女文学全集が読みきれなかったからである。少食のこどもがラーメンの伸びる速さに圧倒されてラーメンが恐くなるのと同じであった。

そんな子どものころにも好きだった本がある。そのうちの一冊は、小学校低学年の時に夏休み課題図書として紹介されたマックスキー作「ゆかいなホームー君」という岩波少年文庫の本だった。これはアメリカの田舎町に住むごくふつうの少年が遭遇する愉快なできごとの話で、例えばドーナツ屋さんを手伝っているときに、それを手伝ってくれたお客の美しい奥さんが大事な指輪を自動ドーナツ製造機の中に落としてしまう。おまけに機械が壊れて止まらなくなり、次から次にドーナツができて店の中はいっぱい。そこで、ホームー君が指輪に懸賞をかけて、見事ドーナツを売りさばき、指輪も見つかるという話。自由でマンガのような楽しさあふれる情景が目に見え、ゲラゲラ笑いながら読んだ記憶がある。当時はテレビでもアメリカのホームドラマが流行っており、アメリカの家庭も子どもも、自由で楽しそうに見えた。厳しい祖母に育てられていた私は、いつも大人の顔色を気にする可愛げのない子供だったので、ホームドラマにあるような自由で楽しげな世界、ホームー君のように自由奔放ないたずらっ子に強く憧れていた。

また、少し大きくなってから読んだ、エレナ・ポーターの「少女パレアナ」という本も印象深い。主人公の少女は両親が亡くなり、会ったこともな

い金持ちの伯母に引き取られる。その伯母たるやひどく気難しく、いつも不機嫌。伯母がパレアナと口をきいてくれるようになったきっかけは、パレアナが伯母の部屋に持っていったプリズムだった。窓からの光がプリズムをとおして壁（ベッドだったか？）に虹ができ、笑ったことの無い伯母が微笑む。固まってしまった心も、何かのきっかけでほぐれることがあるのだと知った。ポリアナとしてあとから映画にもなったし、アニメにもなったが、「喜び探し」という辛いことの中でも喜びを見出すゲームのほうで有名なようだ。そちらはポリアナ症候群ということばにまでなっているようで、あまり良い意味には使われていない。プリズムの話のほうが印象深いのに、残念である。

さて、子どもの本との付き合いは、自分が子どもを持ってから再びはじまった。自分の子どものころと違って、美しく楽しい本が数多く出版されるようになり、一緒に読んでいる親もわくわくすることが多かった。R・S ガネット作「エルマーのぼうけん」も斉藤洋作「ルドルフとイッパイアッテナ」も子どもと取り合って読むくらいおもしろかった。私の父の豪華本強制送付作戦よりも、親が一緒になって面白がって読んでいるほうが、子どもが本好きになるのではないかと密かに思っている。

一方仕事で小児病棟に行くうち、何人ものがんの子どもとの出会いがあった。中学1年で亡くなったS君はとても賢い少年だった。小学校1年生で発病してから寛解になって退院し、強化療法で入院したり、外来に来た時に時々会い、しっかり成長していると感心していた。そのS君が5年生の頃に再発した。彼は病名を告知されており、自分の骨髄を顕微鏡で見ながら、再発の説明を受けていた。

また入院したと聞いて、お見舞いに言った彼の床頭台の上に、ル・グウィン作「ゲド戦記」が置かれていた。思春期にさしかかって、口数が少なくなってきたS君に、「これ、おもしろい？」と聞いたら、「読んでみな」と言ってくれた。彼はすでに2巻を読んでいたので、1巻を借りて帰り、すぐに読み始めた。1巻の始まりのころのゲドはまだ少年で、S君と年齢的に重なった。1巻の中でゲドは魔法を学び、学院卒業後にアースシーの諸島でのさまざまな経験を経て一人前の魔法使いとなる。その途中で自分の奢りから呼び出してしまった死の影にたえずおびえ、戦うが、ついには影を自分と一体化させ戦いが終わる。はじめは怪物かとおもわれる影なのだが、読んでいるうちに「影」は自分の弱さ、自分のずるさといった自分の影なのではないかと思えてくる。影との戦いは実は自分との戦いなのだ。S君のご両親は、これからますますきびしい病との戦いを戦っていかなければならないS君に、自分の影とボロボロになりながらも勇ましく戦うゲドの物語を送り、どう

ぞこの戦いに勝利してほしいと願われていたのだろう。

1巻を読み終わって、Sくんはどんなふうにしたのか聞いてみたいと思いながら返しに行った。しかし、Sくんの病状はますます悪化していて、「すごくおもしろかったよ、ありがとう」「ああ」これ以上の会話をすることができなかった。それから間もなくSくんが亡くなったことを知った。自分の病気を知り、果敢に病気と闘ったS君は、嵐の海を水の漏れる丸太の小舟で航海するゲドと同じだった。

今年のお正月にふたたびゲド戦記を読んでみた。ゲドが師とあおぐオジオンのことばに「光に影がつきもののように、力には危険がつきもの…言うこと為すこと、それは必ずや、正か邪かの結果を生まずにはおかん。ものを言うたり、したりする前には、それが払う代価をまえもって知っておくのだ」とある。ゲド戦記は今も深い教えに満ちていた。

---

#### 〔大学図書館所蔵の児童文学一例紹介〕

岩波世界児童文学集 1～30

- |                    |                   |                   |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 1 星の王子さま           | 11 グリム童話選（新編集）    | 21 トンデモネズミ大活躍     |
| 2 クマのプーさん          | 12 アンデルセン童話選（新編集） | 22 村は大きなパイづくり     |
| 3 ドリトル先生航海記        | 13 白いりゅう 黒いりゅう    | 23 ジム・ボタンの機関車大旅行  |
| 4 たのしい川べ           | 14 星のひとみ          | 24 山賊のむすめローニャ     |
| 5 魔術師のおい           | 15 わらしべ長者         | 25 トムは真夜中の庭で      |
| 6 ホビットの冒険          | 16 みどりの小鳥         | 26 太陽の戦士          |
| 7 風にのってきたメアリー・ポピンズ | 17 やぎと少年          | 27 シェパートン大佐の時計    |
| 8 床下の小人たち          | 18 やかまし村の子どもたち    | 28 大草原の小さな町       |
| 9 風邪の又三郎（新編集）      | 19 魔女ジェニファと私      | 29 ツバメ号とアマゾン号     |
| 10 ムギと王さま          | 20 飛ぶ教室           | 30 あのころはフリードリヒがいた |
-

## 「雑感を綴る」

リハビリテーション学部 教授 長谷川 賢一

カメラのデジタル化が、高性能化が猛烈な勢いで進んでいる。その為かどうかは知らないが、一時期大変な盛り上がりを見せていたクラシックカメラのブームは去った。いや深く潜行し、表面化していないだけかもしれない。デジタル化のおかげで、クラシックカメラの中古価格が下がり、手に入れやすくなったからである。

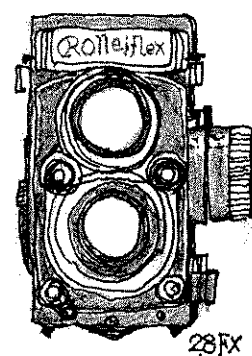
その昔、カメラは金属製で光り輝く存在であった。それが工業技術の発展により、金属からプラスチック製へと変貌し、カメラは輝きを失った。どれを見ても代わり映えのしない没個性のカメラ集団に成り果てたのである。価格は安くなった、性能は確かに良くなったが、持つことの喜びを無くした。普及・向上を目指した結果がこれである。人は何かを得れば、何かを失い、何かを失えば、何かを得る。難しいものだ。このような反動からか、クラシックカメラへの回帰現象ともいわれるような状況が生じ、ブームになったものと思われるのである。

そもそもカメラは、性能だけでは語ることの出来ない世界の道具である。性能が悪く、ピントの甘いレンズで写した写真について、味わいがあるなどと称して真剣に議論するのである。ピント、ぴったり、色も鮮やかであれば全て良

しとする領域ではない。光学的に優秀な日本製のカメラに比べて、データの的には見劣りする外国製のカメラに、人気が集まる所以である。

金属製カメラ特有の重厚さと確かな存在感は、愛好家を魅了して止まない。東京の某デパートで年に1～2回開催される中古カメラの販売会では、開店と同時に愛好家が7階の展示場まで、階段を脱兎のごとく駆け上る。有らん限りの力で踏み板を蹴って先を目指す。なぜ階段でなければならないのか。エレベータは信頼性という点において、我が足には及ばないからである。

人は金属の外見からその厚さがわかる。触ればさらに確実だ。プラスチックに金属メッキを施したものや、薄い金属プレートをはめ込んだ一見重そうなプレートも薄いのか、軽いかかわかる。根拠はないが、人間は物質の内側から滲み出る質量といったものを感じ取るセンサーを備えているのではなかろうか。このようなことは、人間の外見においても同様であるように思う。努力し、経験し、ひたすら向上してきた人は、きっといい顔をしているからである。自分は輝いているであろうか。クラシックカメラのように出しゃばらないが、年を経ても味わい深く、厚みのある確かな存在でありたいものである。



# — 雑誌について —

図書館にある雑誌は形態や種類によって置いてある場所が異なります。また、図書館内で使われる呼称にはあまり聞き慣れないものもあるかと思えます。

ここでは雑誌の設置場所や呼び方・検索方法などについてご紹介します。

## 《図書館内での雑誌の流れ》

**対象：未製本雑誌 / 所在：新着雑誌架**

【新着雑誌】新着雑誌とは、現時点で購入中の未製本(書店等で販売している形態の)雑誌のことです。

日本語で表記されている和雑誌 [専門雑誌/一般雑誌]

外国語で表記されている洋雑誌

雑誌のタイトル順(和雑誌：五十音順・洋雑誌：アルファベット順)で棚に並べています。

約一年経過

— 製本作業 —

専門業者に依頼します (製本作業中の雑誌は閲覧することができません)。

例年、製本作業は年3回程度(時期ごとに)行います。

製本納品後

**対象：製本雑誌 / 所在：製本雑誌架**

【製本雑誌】製本雑誌とは、雑誌をそれぞれ規定の分量でまとめて本の形態にした物のことです。

1年分を1冊または2冊分にまとめた物が多いですが、場合によっては2・3年分を1冊にまとめることもあります。

雑誌のタイトル順(和雑誌：五十音順・洋雑誌：アルファベット順)で並べています。

### ▼注意

製本は今年度より過去5年分が書架に並べてあります。それ以前の物は別置しています。

必要な場合はカウンターに申し出て下さい。

また、紀要・年報など、各大学や各種学会等から発行される物も、雑誌とは分けてあります。

並びもタイトル順ではなく、発行元の名称の五十音順で並べています。

# 《雑誌の検索について》

雑誌を検索する場合の注意点をご紹介します。

※なお、図書の所蔵検索については図書館報(第5号)に詳しい方法を紹介してありますので、参考にしてください。

- ①図書館のホームページから「OPAC 蔵書検索」を表示します。
- ②「検索条件」に探している雑誌名(タイトル)または、キーワードを入力し、検索します。

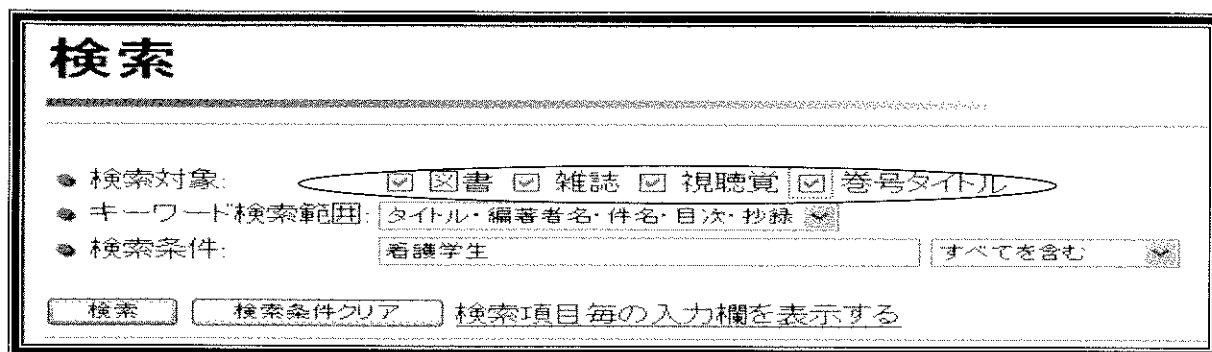


図 1

## 注意

OPAC では通常、図書・雑誌・視聴覚・巻号タイトル全てに対して検索をかけます。検索対象を雑誌に限定する場合は対象以外の□についているチェックをはずしてください。また、図書館内の雑誌は雑誌名(タイトル)を登録していますので、論文の主題(タイトル)を入力しても検索できません。

- ③検索後、該当の雑誌候補が表示されます。

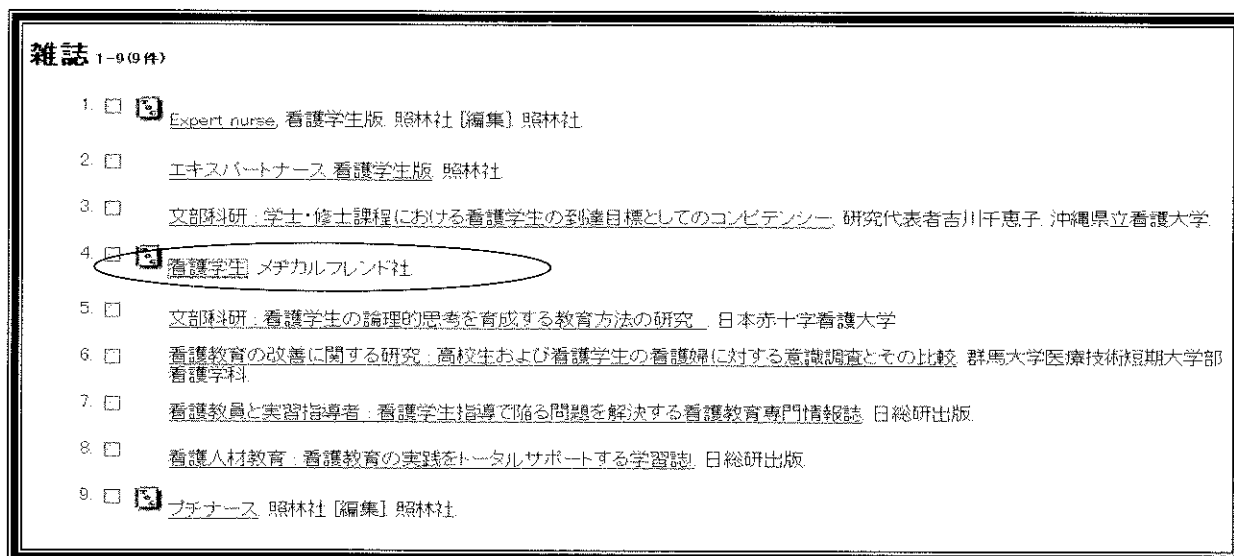


図 2

## 注意

“候補が表示された状態”までで、検索が完了したわけではありません。次の図3のように雑誌の詳細まで確認しないと実際に探せません。

④書名(タイトル)の青い文字をクリックすると、その雑誌の詳細が出てきます。

### 書誌

- 誌名 看護学生
- 編集団体名 メヂカルフレンド社
- 創刊・終刊 18 (0345)-
- 出版 東京
- 継続前誌名 看護学習2年  
資格試験受験コース
- 出版国 日本
- 標題言語 日本語 (jpn)
- 刊行頻度 月刊
- 団体名 メヂカルフレンド社 (メヂカル フレンドシャ)
- 番号 NCID:AN00046494  
ISSN:03855988  
NDLPN:00004388  
ULPN:0036970000

### 所蔵

所在	所蔵年	所蔵巻号(今年度分は新着雑誌架にあります)
1 製本雑誌	1996-2003	43(11-13),44-51,52(1-7,9-13),53-54,55(1-12)+

### 各号の情報

図 3

◆注意

雑誌の所在は主に”製本雑誌”となっていますが、先に説明したように未製本雑誌は  
新着雑誌架にあります。

また、雑誌には購入期間等も表示されていますので必ず確認してください。

巻号が抜けている物は欠号(未所蔵)を表示しています。

## 《所蔵していない雑誌を利用する場合》

図書館内に雑誌が無い場合は以下の方法にて利用することができます。

1. 所蔵している図書館(公共の図書館または他大学の図書館)に直接行って利用する。

◆注意

他大学の図書館を利用するには、紹介状が必要な場合があります。

利用希望の方はまずは本学の大学図書館カウンターに申し出てください。随時対応いたします。

2. 文献複写依頼を行う。

利用者が希望している文献掲載箇所を所蔵している図書館に依頼して、  
複写物を送ってもらうことができます。

◆注意

基本的に雑誌は禁帯出(図書館外に持ち出すことができない物)なので、  
雑誌その物を送ってもらうことはできません。

依頼時の通信費、複写代金と郵送料が依頼者の自己負担となります。

“相互利用申込書”に記入してカウンターに申し出てください。

図書館報 第6号/発行・聖隷クリストファー大学図書館/2008年3月1日

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町 3453/TEL: 053-439-1416/FAX: 053-414-1146

E-mail: cl-library@admin.seirei.ac.jp URL: http://collib.seirei.ac.jp/